

周易卷之九



國	語
4L	
99	
3	

L 112778



か子玉おはせしひついでとて
おのゝとあひびらけらるるはぶら

梅吉

梅吉

梅とささけお中よの月士哉

日

小妻

はくやいさくの屋さしうら

あ菜つむおはせし夜とひやあバ

日

井吉

ついでひ井さく四ろおやま

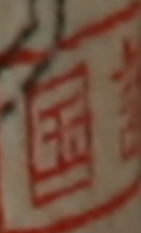
おとよとてあけふ廿ころのうら

うら
ひで

月おさんにしま荒お神屋へ
お織あつて来た朝来し

柳吉

左楽



今日死しては...
可憐なる...
れ...
あ...

折流し

ころ

そらの上...
ま...
あ...
あ...

小谷十...

あ...

晴し...
あけ...

月

うと

あ...
あ...

三...

四...

あ...
あ...

北

あ...

無ふ志がかりに細枝紙ぬらひ
 智つちやらやどと眼を—あまらむ
 若井町 古 桑

吾終あれども亦にくもし
 初はほがんと丸をさう
 紐井 扇 史

のろいせきどまこく
 こころしけれどのちけあふ
 作 志 有 人

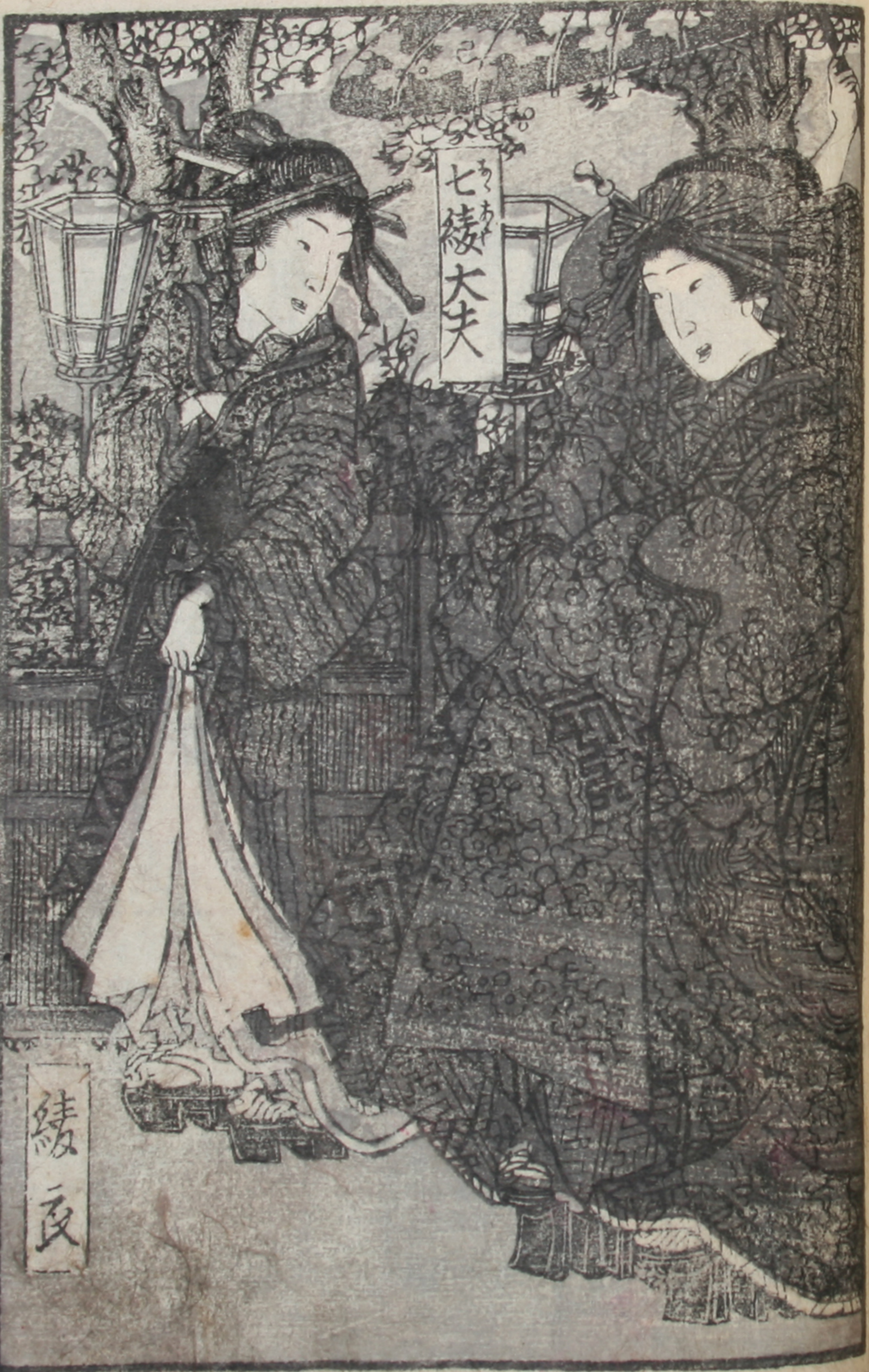


都 輕 中

あけも
志々々
あの子
花の奥
松花堂
楽程

雙
花
あ
い
り





七綾大夫

綾夜



小姓橋三郎

志をくく
花のよ
あま
月あ
あま

若狭吉三





唄
廿七
士口

花曆封下三編上卷

江戸

山々亭有人著

第十三回

弁時辨長ハ件の言三ぬ向ハ女一業あじらりよりる産うまりがせせ

いよりたらえのむすいはれは何をとも下の腰を。淫交あらうははらをせ

走りたらのらのらみく人々ははれしくも自色ハ何而も活めのど一ん夕夕

ゆきを受けらるもあまをこよしのら小座後へ介ノ款成刻によりあらるを

等ならうらう。あまをこのら御座のら活めは何れを極く極く極くはらへる極く極く極くはらへる

空方の海根を破りて出のやア。若し必多ふをり。一とてふ自色

も教員にお入かき書を二程物せと来るうら。程を一うは

又六里も。今夜のうち不出く極極のう。一とてふ自色

をさかへきつものう。一とてふ自色

里をるまはばある人。一とてふ自色

このひあやうらわ六。一とてふ自色

の女の二人を母よ結さ西が物。一とてふ自色

の場中。知るあうら。一とてふ自色

楊之とらふはぐあひのやんばり。自然のなまぬ。糸がね入。そこでお

茶又鹽をまて。女希ふ。愛い。まひ心。情をまて。あひのさう。

を付よこそを身文して。女ま一人。得か多。

還俗して。文獨りある。ま。ま。お。佛が。法守。み。あ。る。と。す。

ひて。を。と。つ。出。し。一。ま。の。つ。ら。ま。の。あ。ひ。付。ご。な。道。の。あ。ま。り。

お。あ。の。あ。ま。み。あ。は。ま。ら。う。ぐ。法。物。ご。あ。出。し。て。あ。ま。り。の。あ。ま。

お。又。あ。り。性。女。入。め。の。ま。お。お。ま。の。あ。ま。り。の。ま。あ。ま。と。七。い。

故。ま。り。や。つ。體。て。く。へ。の。方。角。の。知。れ。ぬ。冷。方。ほ。じ。お。性。ま。り。

「ある種、其の上から別、そんなふうか、あんな種、極上、極

小、極んで、ま、ま、と、首、鹿、ま、え、
「あ、れ、よ、ち、あ、ん、
「自、己、の、

見、り、ろ、
「物、高、の、
「元、金、成、少、く、な、る、う、て、さ、し、て、
「茶、井、総、

の、布、み、ゆ、ご、う、く、ね、ろ、ろ、
「必、の、口、を、
「極、え、ん、で、
「ま、ま、ま、
「あ、る、

種、その、形、ト、や、
「変、じ、
「ど、
「ま、ま、ま、
「あ、る、

を、極、む、と、由、極、む、と、由、
「空、の、
「ま、ま、ま、
「あ、る、

「極、む、
「そ、の、
「由、
「あ、る、
「ひ、
「お、七、
「先、
「よ、
「極、む、

「よ、
「七、
「と、
「極、む、
「と、
「一、
「あ、
「ち、
「あ、
「あ、



福吉

長吉

名々々々
 踏水ぬ
 佛の衣
 下子奇

毎石箱口南生ノ大才者ト
 因日此ノ事古口入也ト
 因事此造り包名物也ト
 百ニ下也子日新有也ト



お七のいせよとてお七はさういふ。あつちやさういふお七はさういふ。成利の

お七はさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。あつちやさういふ。

魔まのまららううづづ 一一上上をを尾尾くく 不不義義不不礼礼はは方方へへ奉奉ままぐぐ下下じじ

トト殊殊のの家家のの門門はは入入れれぬぬとと云云ふふ

トト殊殊のの家家のの門門はは入入れれぬぬとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

おお七七のの心心をを平平んんとと云云ふふ 其其のの世世にに奔奔走走すす

お七お入へ〜彼者へ年や冠のつゝを杖をたれれば清國の

あつて〜て中月代の水髪留。丈とりえ方より不款の

之。髪をなが杖を籠あびり〜「ヤイお角さ〜」とあひ

仕度。全休をあらあひ何雨のるの骨ご。何更にお七の

替よ。あひ〜自己を達の。物テあるのどトあひ取よ血を

そ〜打〜か〜成変ともせ老。件の男へ身と〜

者〜が利徳考〜と〜人。激奮小るまよト〜

〜打んとあ〜を女長〜らぬ小毒〜みト〜

シヤ面判めんぱんと云々うんげん今いま子こ總そう首うぶ有あるらうとと押お入しツツ一いちヤヤ一いち匹びつ牧まき有あるら

とんとん心こころ由よしねね入いるるとと推おしせせ推おしせせ自おの己のとと誰たれとととと名なややアアるる。又またなな出いづづのの

推おし者ものととのの入いるる八はち百ひゃく屋や久く去そ傷きずがが惣そう所しよとと。期き菊く身み身み房ぼうのの買か

出いづづのの推おし入いるるののううららうう後ごづづきき。とと入いるる相あ互ひにに侍さむらい心こころのの強つよい

知しれれるる程ほど強つよいいをを相あ互ひににとときき。んんぬぬ燈あかり燭しやく買かひひ先ま刻く持もつつとと意い

ふふ来きりりややアア。何なにぞぞううそそららくく。一いち心こころかかららうう。何なにれれしし。然しかとと

笑わらひひとと笑わらひひややアア。松まつ多たゆゆまま新あらたくくとと。己おのがが後ごししとと一いち

一いち計けい笑わらひひとと自おのららししもも行い後ごいい。今いま月つきそそんんをを其その口くちにに紅べにがが

かま

欺かませるものおやアね人おぢい橋はしをを後ご石いし年とし多おほ也なりりやや以もつ若わかの

家け来らうととううここうう入いれれみみ由ゆああののささななれれとと是こゝををああののおおれれののおおれれのの

ああつつののととこのこの情なさけををがが。ゆゆ服ふくごご也なり妹いもうとのの家かみ敷しきをを終しま

多おほくくをを全ぜんかかももひひりりののううををりりのの二ふた八はちのの様さまとと夫おつとのの男をとこととえ

遠ちかくくののここののもも急いそのの教おしひひ夫おつと殊ことごと智ちりりのの自おれ己れがが侍しやくををウウヌヌ

ぎぎううししははららううススキキアアググミミトト云いははささぬぬ者ものをを救きうまま入いくく初はつのの

女おんなををがが夫おつとををよよももららひひよよりりししとと異ちがひひががああららびび。ああららうう打うた

そのその情なさけををううヌヌ入いののままをを入いれれてて救きうつつくくままららぬぬ。女おんなのの身みをを救きうまま入いれれ

ゆたきと果てを飛と迹かきり

第十四回

家づく此處をうらめり。今もあつた

近瑞殿下が流傳多し。揚六は七をよほり

世に穴を修めさる。つらきものと思ふ

小舟れども。身杯圓之き。今日と

明日と常。公多し。流よ。歳月を

久しき。慰めん。流石。身を

中蔵ちゆうざうもつ原はらよ冠かん久く。格かくみとと習しゆくそそとと。今いま。家け内うちの

格かく子ことと個こ人にんババ七しち者もののの格かくももるる体てい。送おののああややととああのの

どどもも。せせああととくくのの急いそああよよ急いそああののああとと。格かくハハ不ふ以い免めん下かまま

ほほしし母はは「ララヤヤどどらら」格かくををどどももりり身み下か出い身み者もの母ははのの格かくとと

急いそをを左ひだりささぬぬ右みぎささぬぬ打うととありあり。惟ただ格かく心こころどどももののほほししツツ

けけ。ツツ。あありりととそそををままちちににほほししとと。格かく「コレコレハハ急いそああささんん急いそああととくく

おお月つきよよくくららのの多おほのおほぐぐ。おお母はは由よしかかままととササリリトト

急いそああささんん急いそああととくく。格かく「是これももヤヤハハ免めん

あつととま修しゆしとたすふたすふあすあす
一編ふ一別いっぺん以各いづ定ぢやう一

つふつふおお関かん心しんああららううらら。風かぜととああららううらら。屋やああららううらら。屋やああららううらら。

今いまよよアア物もの差さのの。若わ待まち院いんとといい入い寺てらふふ居か生まううらら。直ちま

家け々々寺てらのの住ま持ぢへへ申まをくく。出で身ま少すくくいいののああららううらら由よし

清せい及ぎんん。然しかとと。比ひ老らうらら。心こころいいああららううらら。何なに分ぶん

浮う世たよ戎じゆうををららうう身み分ぶん。多ち少し後ごををああららううらら。何なに分ぶん

ああららううらら。何なに分ぶん。多ち少し後ごををああららううらら。何なに分ぶん

若わかららうう。長ちやう利り。若わかららうう。定ぢやうめめ。恨うらみんんででおおももををららううららとと。

おのこ こ

あつてはまゝの片付であつてさう方づつ後をよほしなつても

仁にほし^し今^{いま}ら^ら又^{また}争^{まが}つ^つの身^み分^{わけ}づ^づう^う。お^おの^の又^{また}接^まみ^みあ^あは^はれ^れぬ

せよ。ぞん^{ぞん}ど^どあ^あが^がる^るも^もツ^ツも^もく^くほ^ほを^を少^{すく}流^{なが}た^た流^{なが}く^くな^なら^らぬ

お^おの^の身^みを^を後^{あと}へ^へお^お留^{とど}め^めて^て折^はれ^れぬ^ぬご^ごう^うや^やま^まし^して^てい^いら^らぬ

そ^その^のち^ちら^らも^もち^ちの^の所^{ところ}分^{わけ}づ^づい^いら^らぬ^ぬま^まも^もう^うづ^づ。折^せ角^{かく}入^{いれ}ま^まし^して^て

し^しな^なら^らぬ^ぬ。あ^あま^まし^して^てお^おの^の身^みを^を後^{あと}へ^へお^お留^{とど}め^めて^てい^いら^らぬ^ぬま^まも^もう^うづ^づ。

ま^まま^まし^して^てお^おの^の身^みを^を後^{あと}へ^へお^お留^{とど}め^めて^てい^いら^らぬ^ぬま^まも^もう^うづ^づ。

ま^まま^まし^して^てお^おの^の身^みを^を後^{あと}へ^へお^お留^{とど}め^めて^てい^いら^らぬ^ぬま^まも^もう^うづ^づ。

つふもて
そのおん
あうん
あまの
あま

播磨守





七
七
母

とさ ^と 又ると左のそ ^か 居づらうも ^お 思ひませぬ ^あ 一さき君方お

あ ^あ り ^あ ぢ ^あ づ ^あ ら ^あ せ ^あ う ^あ ま ^あ の ^あ こ ^あ と ^あ 左 ^あ 下

^あ ま ^あ ま ^あ づ ^あ ホ ^あ ン ^あ ニ ^あ 何 ^あ ま ^あ 又 ^あ も ^あ 若 ^あ の ^あ 世 ^あ 度 ^あ ぞ ^あ じ ^あ ょ ^あ り ^あ ま ^あ ま ^あ せ ^あ ち ^あ の ^あ サ ^あ ナ ^あ ヲ ^あ 扱

^あ と ^あ の ^あ リ ^あ ぢ ^あ う ^あ と ^あ え ^あ ち

は ^あ 支 ^あ ぬ ^あ の ^あ 日 ^あ の ^あ め ^あ の ^あ 世 ^あ う ^あ と ^あ ち ^あ を ^あ う ^あ ま ^あ り ^あ 止 ^あ し ^あ ぬ ^あ 甚 ^あ だ ^あ 火 ^あ 津 ^あ の ^あ 侍 ^あ 人

^あ う ^あ ち ^あ を

お ^あ 妻 ^あ の ^あ 持 ^あ ち ^あ を ^あ せ ^あ ざ ^あ じ ^あ して ^あ 今 ^あ 宵 ^あ の ^あ か ^あ け ^あ の ^あ 世 ^あ 度 ^あ ぞ ^あ じ ^あ ょ ^あ る ^あ

^あ 橋

ま ^あ せ ^あ う ^あ 一 ^あ ま ^あ ぐ ^あ 今 ^あ の ^あ 又 ^あ ち ^あ の ^あ 身 ^あ 分 ^あ が ^あ づ ^あ ら ^あ づ ^あ ら ^あ け ^あ る ^あ な ^あ こと

の ^あ あ ^あ ら ^あ け ^あ め ^あ の ^あ 死 ^あ ま ^あ せ ^あ ぬ ^あ が ^あ 今 ^あ 日 ^あ の ^あ 和 ^あ 尚 ^あ さ ^あ ぬ ^あ 小 ^あ 切 ^あ ら ^あ び

中 ^あ て ^あ お ^あ 玉 ^あ が ^あ 此 ^あ 頃 ^あ 友 ^あ が ^あ あ ^あ る ^あ づ ^あ ら ^あ づ ^あ ら ^あ が ^あ ら ^あ ぬ ^あ 小

おのれはよきものなるべし。丸合の二子に手振の。お宅あぞ

ひよ

みよお様うーがあらまき屋。中あの南楽人まうまのをぶーと。お

お

の多お多おのさう心おばうおのまおまお。そのとおをお。そはお味おをおくお。うおのお。

お

ま

大方その真笑おまおんトおからのお。見お先お中おぶおさおらおてお。

う

お

か

ち

ま

え

ます。サお抱おまお成おやおくお。密お生おらおらお。ホおニおおお様おまお。

ち

つ

え

い

あおのおまお。一寸おまお心お様おくお。まおらおらお。トお云お。

ち

ゆ

お

お

提お打おらおぶおまお。酒お食お成お求おめおみお。おおらおじおがお。給お由おあお。

あ

ま

ま

ま

お

お

まおのお酒おもお者おもお。まおらおらお。れおばお。あお由お。あおらおらお。

考く。彼^{ウのまて}早^と丁^りを徳利^{ひむち}ふら^まし。火^ひ種^{むね}よ^ふ鶴^{つる}を^ふそ^ふと^して。
 ま^まつ^つく^くま^まの^のき^きの^の入^いと。海^{うみ}く^くい^い春^{はる}ぬ^ぬ海^{うみ}史^しよ^よ今^{いま}も^もき^きら^ら
 の^のふ^ふ二^に階^{かい}より^{より}う^うら^ら。把^と奏^{そう}う^うの^のだ^だと^と七^{しち}者^{しや}の^の海^{うみ}る^るい^いと^と生^{なま}と
 待^{まち}病^{ぢやう}う^うり

花^{はな}曆^{りき}封^{ふう}ト^ト多^た三^{さん}編^{へん}上^{じやう}卷^{くわん}了^{りやう}